

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	イストダックス
診療科名	血液腫瘍内科
診療科責任者名	末永孝生
適応がん種	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	PTCL-3
登録日・更新日	2018年6月19日
削除日	
出典	Int J Hematol. 2017 106:655-665 イストダックス添付文書
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入 (抗がん剤のみ)

No.	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
	イストダックス点滴静注用	10mg	14mg/m2	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	4時間	day1,8,15
	生理食塩液	500mL				

1コースの期間	28日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能()日) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【休薬・減量・中止基準】</p> <p>血小板減少 血小板数が50,000/μL未満に減少 血小板数が75,000/μL以上又はベースラインに回復するまで本剤を休薬する。回復後は同一用量で再開してもよい。 血小板数が50,000/μL未満に再び減少又は25,000/μL未満に減少し、血小板輸血が必要 血小板数が75,000/μL以上又はベースラインに回復するまで本剤を休薬する。回復後に再開する場合の用量は10mg/m2とする。減量後再発した場合には、本剤の投与を中止する。</p> <p>好中球減少 好中球数が1,000/μL未満に減少 好中球数が1,500/μL以上又はベースラインに回復するまで本剤を休薬する。回復後は同一用量で再開してもよい。 好中球数が1,000/μL未満に再び減少又は500/μL未満に減少し、かつ38.5℃以上の発熱を伴う 好中球数が1,500/μL以上又はベースラインに回復するまで本剤を休薬する。回復後に再開する場合の用量は10mg/m2とする。減量後再発した場合には、本剤の投与を中止する。</p> <p>非血液毒性* Grade 3の非血液毒性 Grade 1以下又はベースラインに回復するまで本剤を休薬する。回復後は同一用量で再開してもよい。</p> <p>Grade 3の非血液毒性の再発又はGrade 4の非血液毒性 Grade 1以下又はベースラインに回復するまで本剤を休薬する。回復後に再開する場合の用量は10mg/m2とする。減量後再発した場合には、本剤の投与を中止する。</p> <p>QTc 間隔500msを超える 本剤を休薬する。回復後に再開する場合の用量は10mg/m2とする。減量後再発した場合には、本剤の投与を中止する。</p> <p>不整脈 洞性頻脈(140/分を超える)、心房性律動異常(上室性頻脈、心房細動、心房粗動)、心拍数(120/分を超え、かつ前回評価時から20/分を超えて増加)、心室頻脈(3連発以上) 本剤を休薬する。回復後に再開する場合の用量は10mg/m2とする。減量後再発した場合には、本剤の投与を中止する。</p> <p>◆用量調節の目安 14 mg/m2 1段階目 10 mg/m2 2段階目 中止</p>
---------	---

前投薬	抗5-HT3制吐剤+デキサメタゾン
-----	-------------------

その他の注意事項	<p>心電図検査及び電解質検査 QT間隔延長等の心電図異常があらわれることがあるので、少なくともサイクル開始毎に心電図検査及び電解質検査(カリウム、マグネシウム、カルシウム)を行い、基準値下限(LLN)以上に補正してから、投与すること。</p> <p>ウイルス検査 B型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者(HBs抗原陰性、かつHBc抗体又はHBs抗体陽性)においてB型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎があらわれることがあるので、B型肝炎ウイルス等の感染の有無を確認し、適切な処置を行うこと。投与開始後は継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行う等、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。</p> <p>*帯状疱疹の予防としてアシクロビル又はバラシクロビル、PCPs予防として抗生剤(ST合剤等)を投与してもよい。</p>
----------	---

記入者	伊勢崎竜也
確認者	成田 健太郎